

学校法人 仙台育英学園 秀光中等教育学校

二〇一六年度 第一次仙台・山形選抜試験

国語

(第一問～第三問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開かないこと。
- ・この問題冊子は十ページあります。
- ・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本を読んでいて、わからない言葉が出て来たら、すぐに辞典に教えてもらう。わからないところは飛ばして、スピードを上げて読み進むのも読書の方法の一つであるけれど、ときにはじっくりと辞典に相談に乗ってもらうことだ。

たとえば、文章のなかで、「……と言う本」というように書く人がけっこう多い。そこで、「いう」を岩波国語辞典で調べてみる。

「①言葉に出す」、にはじまっているいろいろな意味や用例が示されている。最後のほうに行って、次のような説明が出て来る。

「という」のように「と」が受ける表現の内容を下の体言に結びつけるのに使い、上の内容が下の体言を具体化する。

そして、「貧乏①びんぼうというものは何としてもつらい」など例文が挙げられて、▽「いう」には（ほとんど）実質的な内容が無い。多くは仮名書き、と結んである。

なるほど、「小論文の書き方と言う名前②の本」ではなくて、「小論文の書き方という名前②の本」でいいわけだ。

そうなれば、たとえば、「親の言うことをよく聞く」というように、「**A**」という意味での「言う」が生きてくるわけだ。

「……と言う名前②の本」も「親の言うこと」もみんな「言う」では、言葉が本来持っている「力」が差し引かれてしまう。

国語辞典を、もっと幅広く使おう。知らない言葉の意味や漢字の書き方を調べたりするばかりではなく、ときには日常、当たり前のように用いている言葉も調べてみる。

〈要注意の言葉〉

① ……である。

③ 「……である。」は要注意の言葉である。有名な用い方としては、前にも触れたけれど、夏目漱石の『吾輩は猫である』がある。

あれは明らかに、「である。」という文末の言葉の、いかにも威張いばった調子をからかっているのである。だって、猫が「猫である」と威張いばっているのは滑稽こっけいではないか。

わたしたちは、こと「論文」となると、その「大」「小」を問わず、「である。」を連発しがちなのである。

「である。」で文章を結びと、もうそれだけで立派な堂々たることを記したような気分になる。

しかし、そんな「気分」になっているのは書いた本人だけであって、読まされるほうからすれば、猫が威張いばって「猫である」と言っている程度の内容にしか感じられない場合が多い。

「私は……と思った。」でいいのに、「……と思ったのである。」と書く。もっとすごいものになると、「……と思ったのであるのである。」なんていうのまである。

とはいえ、日本語の文章の「**B**」は、だれにとって

も難問だ。「……である。」が要注意となると、あとは、「……た。」や「……だ。」など数は限られている。

そこでわたしは、気軽にこう考えることにしている(のである)。(あまり気にせずに、「……た。」や「……だ。」の連発でもいい(のである)。)ともかく、「……である。」の連発よりはましかもしれないと割り切っている(のである)。

② ……と思う。

「……と思う。」も要注意の言葉だ。何でもかんでも、文の最後を、「……と思う。」で結ぶ人が多い。

恥ずかしながら、新聞の社説などにもはびこっている「症候群」で、それを、「思う症候群」と呼びたいほど。

最近の国会のあり方はまことに情けないと思う。なんとかしなければ、政治不信がいよいよ激しくなって、取り返しつかないことになってしまおうと思う。なぜこんなことになったのかといえば、やはり政治家一人ひとりの質がいちじるしく低下したせいではないかと思う。

まあ、いささか戯画化^{注2}して言うなら、こんな具合だ。「思う」を全部とってしまえばいいだけのことだ。こんな風に、

最近の国会のあり方はまことに情けない。なんとかしな

ければ、政治不信がいよいよ激しくなって、取り返しのつかないことになってしまおう。なぜこんなことになったのかといえば、やはり政治家一人ひとりの質がいちじるしく低下したせいではないか。

⑤ 「思う」のほとんどは、削ってしまったほうがいいと思う。ついで「思う」が出てきてしまうのは、われながら情けないと思う。

町を歩いていたときに、消防車がけたたましくサイレンを鳴らしながら走り過ぎて行った。たとえばそんな光景に出くわしたと仮定してみよう。そのときのことを、文章にしてみた。

町を歩いていたら、消防車がサイレンをけたたましく鳴らしながら、わが母校のある方向に走って行った。火事だな、と思った。学校は大丈夫だろうかと思った。もしもそうだったら、母校は十年前にも失火騒ぎがあったのにと考えた。あとで、学校からかなり離れたところにあるAさん宅と知って、この年末に気の毒にと思ったが、小さなボヤですんだのでやれやれと思った。

こんな風に、何もかも「思った」で済ませてしまう傾向がある。だがわたしたちは、こころや精神の動きを示す言葉を、

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

もっというろいろ持っているはず。それを総動員しなければ、言葉に申し訳ない。こんな風に。

町を歩いていたら、消防車がサイレンをけたたましく鳴らしながら、わが母校のある方向に走って行った。火事だ。学校は大丈夫だろうかと不安になった。もしもそうだったら、母校は十年前にも失火騒ぎがあったのにと悲しくなった。あとで、学校からかなり離れたところにあるAさん宅と知って、この年末に気の毒にと同情したが、小さなボヤですんだのでやれやれとホッとした。

言葉を選ぶ、とか、^{注4}語彙（ボキャブラリー）を豊かに、と人はよく言うけれど、それはなにも、きれいな言葉だとか、難しい言葉などを、にぎやかに使うことではない。

ごく平凡な、こころや精神の働きを示すような言葉、たとえば、信じる、疑う、同情する、怒る、確信する、不安になる、満足する、がっかりする……といったような言葉を、それぞれの状況に応じて、的確に選び出すことこそが、言葉を選ぶ行為なのだ。

（轡田隆史「小論文に強くなる」）

注1 症候群……ここでは、いくつかの良くないものが表われること。

注2 戯画化……面白おかしく、遠まわしに、人や社会を批判すること。

注3 失火……不注意によって起きた火事。

注4 語彙……言葉の集まり。

問一 —— 線①「^{びんぼう}貧乏というものは何としてもつらい」の

文章の中から、内容が具体化されている体言の語（名詞）を書き抜きなさい。

問二 —— 線②「『小論文の書き方という名前の本』でい

いわけだ」とありますが、筆者がどのように考えた理由を、三十字ほどの一つの文で書きなさい。

問三 —— 線③「『……である。』は要注意の言葉であ

る」とありますが、どんな点で「要注意」のですか。それを本文中から書き抜き、「点」に続く形で答えなさい。

問四 Aに入れるのに最もふさわしいものを次の

ア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 思う
- イ 怒るおこ
- ウ 試す
- エ 話す

問五 Bに入れるのに最もふさわしい一語を本文中

から書き抜きなさい。

問六 線④「いささか」の意味として最もふさわしい

ものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 少しばかり
- イ まじめに
- ウ かなり
- エ はっきり

問七 線⑤「『思う』のほとんどは、削ってしまった

ほうがいいと思う」とありますが、筆者がこの文を

「……と思う」で結んでいることの説明として、最もふ

さわしいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 新聞の社説などにも表れている「思う症候群」の
広がりに対し、怒りをこめていること。

- イ 文章を書くプロですら「思う」を多用するので、

その使用は問題は無いと考えていること。

問八

本文に書かれている内容の説明としてふさわしいものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ウ 自分自身を批判し、自分もあやまった使いかたを
しないように注意しようということ。

- エ 「思う」のほとんどは削るべきであっても、無理
をする必要はないと考えていること。

- ア 読書のときに、分からないところは飛ばしてス
ピードを上げて読み進めても、読む力は身につか
ないので注意すべきだ。

- イ 言葉が本来持っている「力」を文章に生かすため
には、国語辞典を幅広く使い、言葉について調べ理
解しなければならぬ。

- ウ 文章を「である。」で結ぶと、書き手も読み手も
その文章に立派なことが書かれていると思いついで
しまいがちだ。

- エ 心の動きをあらわす言葉を使うとき、その心の状
況に応じたうつくしい言葉をきちんと選び出して
いく必要がある。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

名前は久倉先生だけれど、私たちはみんなキュウくんと呼んでいた。年は二十代後半で、自分の作品を売って生計をたてているプロの芸術家だった。

キュウくんがその教室の先生になったのは、二年前のことだ。

これまで教えていた教室を開いている家の持ち主のおじいさん先生が引退^{注1}して、代わりに彼がやってくることになったのだ。

キュウくんはもともとその教室に幼い頃通っていて、とてもそれが自分の才能を育てるのに役にたったので「子供に絵を教えたい」と強く希望して、先生として戻ってきたそうだ。そんな事情でキュウくんをむかえたとき、説明をするおじいさん先生は、とても誇^{ほこ}らしげだった。

これまでの **I** おじいさん先生の教え方と違って、キュウくんの教室はぴりっとしていて刺激的だった。そして新しいことをたくさん教えてくれた。

どんな絵を描^かいても絶対に文句を言わないし、直さない。それはこの教室のもともとの方針だった。そしてさらにキュウくんは私たちの個性を大切に、絵をどこにも誘導^{注2}しようとしなかった。もしも誰かがわざと彼好みの絵や彼の作品に似た絵を描いたりすると、どならんばかりに怒^{おち}って、そして誰よりも彼がうんと傷つく。小学生たちになぐさめられたり

しながら、彼は「なんでもいいから、線一本でもいいから、自分の絵を描いて。ピカチュウも禁止。アンパンマンもだめ。」^②といつも泣きそうな顔で言う。

「それがその人のいちばん描きたいものならいいんじゃないの？」と私は思うので、**II**、小さい子なんかはそういうのを描いているとうんと楽しそうにしているの、そう言ってみたことがある。おじいさん先生るときはそういうのがオッケー^③だったのだ。

でも、そこだけは彼は彼はゆずらなかつた。

「僕は経験上、嘘^{うそ}の絵をひとつ描いたら、絵を描くことから一歩離れるだけだということを知っている。家で描くなら何を描いても楽しければいいと思うけれど、ここでは、どうしてもその手助けはできない。」

と彼はまじめな顔で言った。

「他の人はそういうやり方でもできるのかもしれないけれど、僕は、それをいいって言ったら、自分の作品までわからなくなってしまうから、自分のためにもできないんだ。だって、ピカチュウは絶対に黄色いし、ドラえもんは青いでしょ？ そこに自分が入る余^{注3}地がなくなっちゃうもん。」と。

そうやってまじめに答えてくれたので、私は「大人の人間にただ考えを押し付けられている」という気持ちに決してならなくてすんだ。もしどうしても描きたければ、自分の作品の中に描きたいものをなんと少しでも組み込むくらいの気持ち

があったら、きっとキュウくんは認めただろうと思う。そういうところが真剣勝負だったから、「あな^④どられていないこと」そのものが楽しかった。大人が真剣に自分たちの絵を楽しんでくれているということだけでも、「子供は嬉^{うれ}しくて、もっと描こうと思うものだ。

私は、自分の考えを抽象画^{注4}にするやり方を彼に教わった。^{注5}思春期を迎えているいろいろな変化があり心と体がばらばらになって、足場がどうにもはかなくなっていた頭^⑤でっかちの私にとって、それは心強い武器になった。

「自分の考えをよく見てみると、きっとそれぞれに色があるだろう？ 色として見えなかったとしても、^⑥しいて言えばどの色に置き換えられるかは想像できるだろう？ それをどんどん塗^ぬっていつてみたら？」と彼は当然のこのように言った。

私はそう言われてはじめて、自分の考えに色があるということ^⑦を自覚することができた。

それで私はどんどん色を塗って、夢中で考えを紙の上に置き換^かえていって、苦しいときには苦しい色を、でもやっぱりちょっと楽しくなりたいから楽しい気持ちの色を、探していった。そうやって体を動かしていると、頭の中だけが熱くならなくてすんだ。

そして私が「ここにはペーミントの色を入れたほうがバランスがいいだろう」なんて思って、実際に自分では思って

いないようなことでも塗^ぬってしまうと、なぜだか彼にはそれがよくわかるみたいだった。何がいけないのかうまくは言えないけど、この色だけなんとなくじゃまに見える、と彼はたいていのはきはっきりと言った。彼が見破れないときにはなんとなく私はがっかりしたけれど、そうやって **Ⅲ** に自分で気づいて、もうそういうことはやめた。

そうやって何かを突き詰めていくことが、行き止まりの道だけじゃないということを、絵の先生としてのキュウくんは教えてくれた。

(よしもとばなな「High and dry (はつ恋)」)

注1 引退……役職や地位から身をひくこと。

注2 誘導……人や物がある場所や状態にさそい導くこと。

注3 余地……そのことができる機会。ゆとり。

注4 抽象画……事物のままの再現ではなく、形や色彩がもつ表現力を追求するような絵画。

注5 思春期……児童期から成人期へと移行する中間の時期をいう。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問一

——線①「おじいさん先生は、とても誇らしげだった」のはなぜですか。その理由として、最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア キュウくんは、後継者になれるかわからないが、

この教室を気にしていると思ったから。

イ キュウくんは、まじめな教え子であり、自分の引退後は教室を任せられると思ったから。

ウ キュウくんは、この教室で才能を育てられたと考え、自分から講師として教えたいと希望したから。

エ キュウくんは、まじめで絵の才能もある教え子であり、子供の指導もできると思ったから。

問二

—— I、IIに入れるのに最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

I ア せかせかした

イ おっとりとした

II ア さて

イ なぜなら

ウ きりりとした

エ しんみりとした

問三

——線②「いつも泣きそうな顔で言う」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考えが伝わらない悲しさのため。

イ 自分の考えの誤りを知った悲しさのため。

ウ 小さい子はわがまますぎて困ったため。

エ 小さい子は漫画まんがが好きで困ったため。

問四

——線③「そこだけは彼はゆずらなかった」とありますが、「そこだけ」とは何を指しますか。本文中からその最初と最後の五文字をそれぞれ書き抜きなさい。句読点も字数に含めます。

問五

——線④「あなどられていない」、⑤「頭でっかち」、⑥「しいて言えば」の本文中での意味として最もふさわしいものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ④ あなどられて
いない

- ⑤ 頭でっかち

- ⑥ しいて言えば

- | | | | |
|--|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ア よく考えて言えば イ わりして言えば ウ さりげなく言えば エ はじめに言えば | <ul style="list-style-type: none"> ア 相手だけに軽く見られてばかりにされる。 イ 相手に真剣勝負をしてもらえない。 ウ 相手から力を認められている。 エ 相手から見下されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ア 知識だけが豊かで行動の伴<small>とも</small>わない様子。 イ 自分の考えを抽象画にする様子。 ウ 自分の身長割合から頭が大きい様子。 エ 思春期を迎えいろいろ変化が生じる様子。 | <ul style="list-style-type: none"> ア よく考えて言えば イ わりして言えば ウ さりげなく言えば エ はじめに言えば |
|--|---|--|--|

問六

——線⑦「頭の中だけが熱くならなくてすんだ」とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 先生から色の塗り方を教えられ、あれこれ考え体を動かして絵を描いたから。
- イ 夢中で考えては、紙の上にとんどん色を塗って、体を動かして絵を描いたから。
- ウ 先生から絵は行き止まりの道だけじゃないと教えられ、頑張って絵を描いたから。
- エ 自分の考えには色があることを学び、思いに合った色を探して絵を描いたから。

問七

□ IIIに入れるのに最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人は人としてのすばらしさ
- イ 人を見破ることの難しさ
- ウ 人をためすことの醜みにくさ
- エ 人と自分とを比べることの無意味さ

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ジャイアントパンダは「大熊猫」と書く。つまりクマの仲間である。そうであれば本来雑食で、肉も食べるはずだ。実際パンダが持っているたんぱく質を分解する酵素は、普通のクマとほとんど変わらないという。ところがパンダは草食で、専らササを食べる。

進化の過程でうまみを感じる **A** センサーが壊れたために肉のおいしさが分からず、食べる気にならないのだという。あの風姿で、他の動物の肉を求めて狩りをするのは大変そうだ。それで肉を食べずに済むよう味覚を失ったのだろうか。

ペンギンも甘みとニガみ、うまみが分からず、塩味と酸味しか感じられないと米国の研究チームが報告している。南極の過酷な環境の中でえさを丸のみしているうちに複雑な味を感じる能力が損なわれたらしい。おいしいと感ずることは大きな喜びだが、じっくり味わうシユウカンがなくなると失われてしまうものなのかもしれない。

環境省が初めて、全国の公立小中学校の学校給食を調べたところ、一人当たり年間七キロ余りの食べ残しを出していた。これは、ご飯茶わん約七十杯にソウトウする。もったいない話だ。

日本の食料自給率（カロリーベース）は四割にも満たない。多くを輸入に頼っているのだから、無駄はできるだけ減

らしたい。学校現場でも好き嫌いをなくすための **B** が続く。六割余りの学校で子供が自らの食について考え、さまざまな知識を身につける食育を実施しているそうだ。きょうは「こどもの日」である。かしわ餅やちまきを食べながら、親子で食について考えてみてはどうだろう。好き嫌いで、おいしさを感じる力が損なわれないように。

（毎日新聞「余録」平成二十七年五月五日掲載）

注1 酵素……生物のからだで作られる、分解などの様々なたらきを持つ物質。

注2 過酷……度が過ぎて厳しいさま。

問一 ~~~~~線 a ~ e のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| a | 過程 | b | 風姿 |
| c | ニガ(み) | d | シユウカン |
| e | ソウトウ | | |

問二 ———線①「雑」の総画数は何画ですか。またこの字の太字の部分は何画目ですか。それぞれ漢数字で答えなさい。

↓
雑

問三

□ Aに入れることばとしてふさわしいものを、

本文中から漢字二字で書き抜きなさい。

問七

□ Bに入れるのに最もふさわしいものを次の

ア～エから選び、記号で答えなさい。

問四

——線②「失われてしまう」とありますが、何が失われるのですか。本文中から十字で書き抜きなさい。

- ア 空理空論
- イ 自給自足
- ウ 疑心暗鬼あんき
- エ 試行錯誤さくご

問五

——線③「もったいない」の語の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

問八

——線「食べ残しを出していた」とありますが、なぜ筆者は、それがよくないことだと考えるのですか。その理由を述べている部分を三十字以内で書き抜きなさい。ただし、句読点も字数に含めます。

- ア 悲しい
- イ 惜おしい
- ウ 苦しい
- エ 痛い

問六

——線④「食料自給率」の説明として、最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 国内の食料消費が、国内生産物でどの程度まかなわれているかを示す割合。
- イ 各国の食料消費が、全世界の生産物でどの程度まかなわれているかを示す割合。
- ウ 食料の国内生産物が、海外でどの程度消費されているかを示す割合。
- エ 食料の海外生産物が、国内でどの程度消費されているかを示す割合。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

